大館の歴史散歩

戊辰戦跡を歩く ②

幕末の日本は、天皇に忠誠をつくし徳川幕府を倒そうとする勤王派と幕府を支持しようとする佐幕派に分かれ、久保田藩に限らず全国諸藩においても容易に藩論は統一しなかった。このような状況にあって奥羽諸藩の立場も微妙であった。幕府の要請により京都守護の任務で派遣された奥羽諸藩の要人たちは、勤王についての関心が深かったものの、勤王派を称する薩摩藩や長州藩の粗暴な振る舞いを目のあたりにしてきて、薩長両藩に対する感情的なこだわりは強かった。

このようななかで奥羽越三十三藩は、それぞれの思惑をもちながらも反薩長の立場から、慶応四年四月二十日攻守軍事同盟を結び、久保田藩もこれに加わったのである。この年の夏、勤王派を中心とする新政府軍の会津討伐が開始されるに至り、東北に緊張が高まった。しかし、久保田藩内では、正義派グループの力が強まり、藩主佐竹義堯を動かして七月四日に新政府支持の立場に変わるとともに、いち早く同盟を脱退した。このため、近隣諸藩との対立がにわかに深くなった。同時に津軽、南部の両藩境の警備にあたっている大館、十二所の備えも重要になってきた。

南部軍別所街道口陣所跡より別所を望む

久保田藩は、七月五日部隊編成を行い、翌日の六日から九州鍋島藩の応援を受けて由利、矢島方面に出陣した。しかし、久保田軍は元来戦意が乏しい上、戦法は旧式で武器も貧弱であった。対する庄内軍は、仙台、米沢軍の支援もあり、数的に優勢であるばかりでなく、兵士としての質もよく、その上装備は奥羽諸藩の中で最も優れていた。庄内軍の攻勢で藩内深くまで攻め込まれた久保田藩にとって、この時期に南部、津軽のいずれかの攻撃を受けたら、大館方面は防ぎようのない状況にあった。

津軽藩では、先の五月に同盟側の立場から、朝廷より任命された奥羽鎮撫総督の入国を拒むという名目で矢立峠を封鎖した。しかし、久保田藩に続いてすぐに同盟を脱退した後も、南部藩によしみを続けたり、逆に大館に援兵を出したりするなど、日和見的であった。一方、南部藩は、久保田藩と同様初めから同盟には消極的なメンバーであって、実質的には中立の態度をとっていた。久保田藩の同盟違約により、当然最も近い南部藩に対して久保田攻撃が要請されたが、天下の情勢を見定めきれず、城中では連日その評定が続けられていた。しかし、家老楢山佐渡をはじめとする藩内の同盟派が評定を統一すると、七月二十七日十二所口へ向けて出兵を開始した。

南部軍は、十二所口本街道に本隊を置き、別所街道口、葛原街道口、新沢街道口、大葛街道口、津軽濁川口のほか、花輪留守部隊、尾去沢後詰め隊など総勢は二千百人余りであった。これに対し、この時の十二所側総兵力は三百人にも満たなかった。

八月九日午前八時、十二所本道隊の沢尻口攻撃により戦闘が開始された。このときから、大館の地も戊辰の役へとまきこまれてゆくのである。

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

「ベトナム難民少女の十年」

ドラン・ゴク・ラン著　中央公論社

祖国ベトナムを追われボートピープルとして脱出を余儀なくされた一家と、難民としての悲惨な体験を乗り越えて医師を目指すひとりの難民少女。

その家族の運命を通して、経済大国日本の難民救済への対応はいかにあるべきかを考える。

一般書　◇異人館周辺（陳舜臣）◇アド・バード（椎名誠）◇陰の絵図〈上・下〉（新宮正春）◇もどり橋（澤田ふじ子）◇民具の博物誌（岩井宏實）◇花のとき（小笠原貞子）◇語源の文化誌（杉本つとむ）ほか

児童書　◇オーロラの下で（戸川達夫）◇42人の人物と日本の歴史〈全８巻〉（学習研究社）◇絵でみるたのしい古典〈全８巻〉（学習研究社）ほか

5月のテーマ関連図書コーナー

『子どものあそび』

親子読み聞かせ会

5月18日金曜日　午後２時30分から

中央図書館の休館日

5月20日、24日、6月17日

『災害は忘れたころにやってくる』

―― 5月は水防月間です ――

梅雨や台風シーズンになると、毎年のように集中豪雨や河川のはんらんによる大きな水害が各地で発生します。大切な命や財産を守ろうと、建設省は5月を水防月間として水防活動を行っています。

備えあれば憂いなし、水防活動への地域住民の積極的な参加と、日ごろの心構えで被害をくい止めましょう。